

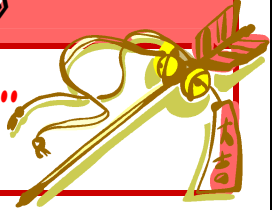


手をたずさえて



保護者の皆様へ 2020年《令和2年》

新たな年のスタートです。良き年になりますように…
今年もよろしくお願ひいたします！！



保護者の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
短い冬休みでしたが、現在のところ事故の報告はありません。ご家庭でのご支援ありがとうございます。さて、いよいよ3学期がスタートしました。3学期は短くあっという間ですが、各学年の締めくくりに大切な学期でもあります。生徒には「今しかできないこと」「今だからできること」を頑張り、悔いを残さないよう過ごして欲しいと願っております。保護者の皆様におかれましても、どうか本年も昨年同様、本校教育活動に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

“ちがひ”を“ゆたかさ”に…

第3学期始業式校長式辞

新年あけましておめでとうございます。

みんなが、元気な姿で、ここに集まっていることを嬉しく思います。令和2年、今年も“富中PRIDE”の旗の下、ともに力を合わせ頑張っていきましょう。

3年生は、卒業まで登校する日は今日を含め45日です。それぞれが、それぞれのゴールを目指し、悔いの無いよう一日一日を大事に、“仲間”とともに過ごしていきましょう。自分だけがゴールしたら終わりではなく、“仲間”みんなとそれぞれのゴールを目指してほしい。全員がゴールできるまで、ともに磨き合い、励まし合ってほしい。それが本当の“仲間”です。

1・2年生にとっては、3学期はまとめの学期であり、50日という短い日数ですが、次の学年に繋ぐ大事な学期でもあります。“仲間”と力を分かち合いながら、積極的に物事にチャレンジし、“仲間”とともに互いを高め合えるようにしましょう。

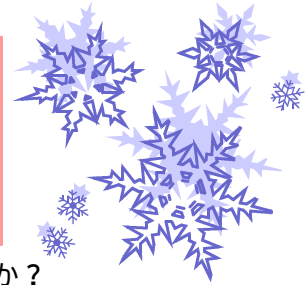
さて、2学期、先生方に、「富中生の“誇れるところ”は」というアンケートをとりました。主な回答は次のとおりです。

- 言われたことを素直に受け入れてやろうとするところ。前向きで素直なところ。
- 挨拶がしっかりしている。相手の目を見て挨拶ができる生徒が多い。礼儀正しい行動ができる。
- 運動・文化両面での活躍。
- 真面目であるところ。メリハリをつけた生活ができているところ。
- 適度に都会的（対外的な場でのスマートな振る舞い）と、適度に純朴（素直な心で話が聞ける、親切で思いやりもある）なところ
- 仲間を除外しない。困っている生徒に声をかけることができるところ。弱者に対して優しい言動がとれるところ。
- やるときはやる。互いに協力して、大切なものをつくりあげることができるところ。
- きれいにしようとする気持ちを持って清掃する生徒が多い。
- たくさんの個性に溢れているところ。 ■ 集会等での凛とした姿。 など



同じく、「富中生の“改善すべきところ”は」、「富中生に“身に付けてほしいこと”は」では、次のような回答がありました。

- 自ら考え、判断し、行動すること。いわゆる、主体性や自主性。
- 根気強さ・我慢強さ。粘り強さ。精神面の強さ。
- ここ一番というところで自分の力を発揮しようとする姿勢・態度。
- 集団のために進んで何かをしようとする気持ち。
- 自分自身に自信を持つこと。 など



みんなは、これらを聞いて、何を感じましたか？ そして、どう考えますか？

人生は人との出会いの連続です。人はたくさんの人と出会って、繋がりをつくりながら豊かな人生を送ろうとしていく。百人にれば百の考えがあります。百の感じ方があります。百の個性があります。それぞれ違うものをもっている者同士が、互いをカバーし合いながら、力を合わせ、目の前に立ちただかる困難に立ち向かっていく経験こそ、これからのみんなに大切にしてほしいことです。

この3学期には、“ちがい”を“ゆたかさ”に変えていける場面の一つでも多くつくってほしい。

そして、大切にしてほしいことを3つ言います。①1時間1時間の授業を大切にする。②思いやりの心を大切にする。(生かされている自分を自覚し、他に対して思いやりある言動がとれるようにする。)、③命を大切にする。(“事故防止”という言葉を常に意識して生活する。)

最後に、ある中学生がつくった一つの詩を紹介します。

タイトルは『弱いところであつなっていく』です。



菜の花は 自分では動けないから ハチに蜜を運んでもらっている
 ハチは 自分で蜜をつくれなから 菜の花に蜜をつくってもらっている
 わたしは 計算が弱いから お兄ちゃんによく教えてもらっている
 お兄ちゃんは 服のセンスが悪いから わたしによく服の相談をする
 子どもは 知らないことが多いから 大人からいろいろな知識を学ぶ

わたしたちはみんな 弱いところがあるから その弱いところで ちがうだれかとつながっている

走れない魚も 海があれば 行きたいところに泳いで行ける 魚が動けないわけじゃない
 泳げない獣も 陸があれば 行きたいところに走って行ける 獣が動けないわけじゃない
 それぞれに 必要な環境が 違っていただけのこと

それぞれが 自由になれる環境を そこにつくっていかれるかどうか

駅にエレベーターがあれば 車椅子でも 行きたいところに電車でいける

わたしたちはみんな 弱いところがあるから その弱いところで ちがうだれかとつながっている



県最高賞2作品の表彰式開催 受賞おめでとうございます！

福島県教育委員会主催「ふくしまを十七文字で奏でよう絆ふれあい支援事業」の表彰式が、12月14日(土) ホテル福島グリーンパレスで行われ、絆部門で最優秀賞を獲得した3年村上沙由さんが一緒に作品を作られたお母様とともに表彰を受けました。また、日本赤十字社福島支部主催「青少年赤十字 詩・100文字提案」の表彰式が、12月26日(木) 同支部で行われ、日本赤十字社長賞を受賞した1年志田柚季さんが表彰を受けました。この2作品は、

「学校だより No.30」に掲載しましたが、ともにその想いが読み手の心に届くすばらしい作品でした。

日赤東支 青少年詩・100文字提案

日赤東支の「青少年赤十字 詩・100文字提案」の優秀作品を記した。受賞者7名と表彰式は二十七日、福島の同支部で行われ、最高賞の日本赤十字社長賞に選ばれた志田柚季さん(富田中一)らを含めた。

藤木敏明事務局長があいさつし、受賞者一人一人に賞状を手渡しした。

詩・100文字提案には県内の青少年赤十字に加盟する小、中、高、五、四、三、二、一、の各校から三千四百三十九校の応募があった。志田さんは「わたしのふくしま」のテーマで、美しい福島県空への思いを文字提案として、受賞者7名と表彰式は二十七日、福島の同支部で行われ、最高賞の日本赤十字社長賞に選ばれた志田柚季さん(富田中一)らを含めた。

藤木事務局長から賞状を受ける志田さん(右)

志田さん(福)ら表彰

小(五年) 白田ひより(富田東小五年) 川崎ひより(富田東小五年) 田中ひより(富田東小五年) 田中ひより(富田東小五年) 田中ひより(富田東小五年) 田中ひより(富田東小五年) 田中ひより(富田東小五年)

「青少年赤十字詩・100文字提案」表彰式 『福島民報』2019.12.29

表彰式

主催 福島県教育委員会

「十七文字絆ふれあい支援事業」表彰式